

町田市議会議員・ネット発信NO.1

吉田つとむ

YouTube動画1000万回再生目前!



タカ食品工業関東支社工場視察

学校給食用小袋ジャムのトップメーカーであるタカ食品工業の本社工場（福岡県みやま市）視察（7月）に続き、同社の関東支社工場（栃木県栃木市）を訪れました。後者の視察には、早朝に出発して夕方に戻る強硬日程でしたが、インターン生が1名同行しました。両工場に共通するのは、どちらも田園地帯の真ん中にあり、さらに、双方ともイチゴの名産地（あまおう×とちおとめ）であることが特徴になっていました。関東支社工場では、業務用（大袋）のジャムやピューレを製造していました。社会的な需要変化を見越して本社工場とユーザーの対象を大きく変えていました。

業務用のジャムやピューレと言うのは、お菓子やケーキに用いられるもので、タカ食品工業の得意先は全国の中小食品製造の工場・事業所で使われているものであり、きめ細かい品種を多岐なユーザーに提供するために、販売に当たっては直販ルートより食品分野の商社との協業が特徴的に思えました。



タカ食品工業の関東支社の最寄り駅は、東武宇都宮線野洲大塚駅となっており、駅舎にもイチゴの絵柄が全面に描かれていました。

災害現場復旧資材の紹介：かご丸くん



東京ビックサイトの展示会見学のレポートの続きですが、「メンテナンスとレジリエンス（回復力）」と言うタイトルでした。今回追加して紹介するのは、災害復旧現場用の土木資材の一つをレポートしました。

「かご丸くん」というブランドの大型円筒金網です。大規模な連続した土砂崩れの復旧資材ですが、昭和機械商事株式会社という全国展開している企業の特許製品でした。通常は、「布団かご」、水中では「蛇籠」といわれるものに「割り栗石」を詰めますが、これは機械でかごの中に割り栗石を天井の蓋部分から容易に入れることができます。複数の「かご丸君」を土砂崩れした現場に並べて、ワイヤーでつなぎ合わせることができると言い、耐久性の観点から土嚢やトン袋に勝っていました。

私は、30歳代前半に土木建設資機材の販売会社にいました。当時、布団かご、蛇籠は取扱品物の一部で何度も販売したことがあります。そのために、山の斜面、川の中、（水害の）災害現場に何度も訪れていました。

◎町田市議会は定数36名（1名欠員）。大多数はそれぞれの会派に所属しますが、会派に属しない諸派議員が5名です。吉田つとむは、「無所属」という3名の会派に所属。議員は原則「会派」単位に活動し、一般質問は個人で行います。

その会派「無所属」の3名は、採決において、自由に賛否を決める場合があります。

良識ある保守主義・情報公開

吉田つとむ

町田市議会議員 4期連続トップ当選

＜編集発行＞

〒194-0011 町田市

成瀬が丘1-14-12

サンホワイトE103-13

自宅042-795-7361(fax 兼用)

市議会議員 吉田つとむ

yoshidaben@gmail.com



総務委員会議案質疑：過誤納還付金内容

今期の定例会冒頭で、補正予算を早々に決めて、採決で可決次第支出手続き（還付）や契約発注を即座にしなければならない事項があるということでした。通常の補正予算案68号に先行して67号議案として審議をすることになりました。本会議質疑を受け、3委員会に付託されました。所属する総務常任委員会では、過誤納還付金150000千円の支出に関して質疑をしました。

発生の具体的な内容は、過年度分の法人市民税の還付分があったもので、法人市民税で主要な2件は、市外に移転したために、当該分を還付するのが必要になったもの、もう1件は、中間申告で納税した金額が多かった事業者に還付が生じたものでした。

個人では1458件に上る還付金が発生していますが、株式取引に関するものでした。この間はそれだけ株価に値下がりが生じていたという理解でした。なお、予算書には還付金と返還金と並列して書いてありましたが、間違いが原因で当事者に返還されることは無いというものでした。

この補正予算案審査では討論が無く、全会一致で、委員会も本会議でも可決されました。



○支持政党なしの方々の代表＝吉田つとむの基本理念は、良識ある保守主義です。

○吉田つとむは、「若者育成」をトップの政策に掲げています。

◎水耕栽培メロン 世界一決定戦を開催しよう！

町田市議会の無所属会派は、政党に所属しない議員3名で構成し、明快な議論を提起します。

インターン体験記⑥-2 岡田愛海

横浜美術館で開催されていた企画展示、【佐藤雅彦 新しい×（作り方+分り方）】を訪れました。ピタゴラススイッチなどを考案した佐藤雅彦さんですが、湖池屋やネスレ・ミロのCM、ゲーム「I.Q.」の原案、子供学習の番組なども手掛けてきました。それらを今回の展示会で展示解説していたのですが、全体の印象はやはり「楽しく、分りやすい」というものでした。



言葉ばかりのうんちくでも作品ばかり展示しただけのものでもなく、鑑賞を通して理解を深めたり知識を得られるよう、学べる展示会をテーマに計画されたのだと感じました。印象深い展示は数多くありましたが、広報物や広告デザインに関することへ目を向けたインターンを学ばせていただいている身として、佐藤雅彦さんの手がけたCMの解説ゾーンのことを書きたいと思います。

佐藤雅彦さんの手がけた数多くのCMには、どう視聴者の目を引くか、どう視聴者に商品のことを印象付けられるかということ、作り方から考えていると紹介されていました。音で印象付ける方法、ミクロの世界を使った方法など……その作り方によってどういったアイデアを足すか、というものです。

湖池屋のCMにてフレーズを繰り返す方法を使うとして、アイデアはなんとするか。監視カメラに映った主婦が売り出したいスナック菓子の名前と特徴を呟っている。事件に関係していたその映像を刑事が二度巻き戻し、同じフレーズを自然な流れで視聴者に刷り込みます。ドラマ性も兼ね備えた印象深いCMがこうして作られたのだという説明を展示会で見た時、展示会のサブタイトル【新しい×（作り方+分り方）】の意味を理解し、佐藤雅彦さんの深い作りの世界を感じた展示会でした。

横浜美術大学4年生 岡田愛海（第56期生）

若い世代の育成に全力をささげる
町田市議会議員(支持政党なしの方々の代表)

吉田つとむ



ブログ 個人HP



メールは
左記を読込
して送信



好評インターンシップは、第55期生が終了しました。

インターン体験記②-1 露木莉子

タカ食品工業関東支社訪問、工場視察見学

今回は、タカ食品関東支社を訪問させていただきました。私は学校給食に出てくるジャムを製造していると想像していたのですが、関東支社ではケーキなどの原料になる業務用のジャムやピューレの製造を中心としているとのことでした。私は、お客様のご要望に合わせてどんなジャムでも作るというお話が1番印象に残っていて、本当に世界各地から様々なフルーツでジャムやピューレの製造を行っていました。ジャムの使い方によって、伸び具合や硬さなどを考慮し、製造など全てこだわり抜いているとのことでした。また、種類や原材料の品種ごとでも砂糖の種類を変えて調整しているそうです。お客様の要望を第一に考えるということは、多くの知識が必要だということを知りました。

フルーツごとに最もジャムやピューレに向いている原材料を多数の産地から取り寄せ使用しているというお話も印象的でした。実際に、ジャムやピューレの原材料のフルーツを試食させていただきました。海外のいちごと日本のいちごを実際に食べたところ、同じいちごでも特徴が全く違うことを実感し、原材料から適したものにこだわり、用途に合ったものをその都度使用あ、hいるということを知りました。

昭和女子大学3年生 露木 莉子(第56期生)



◎吉田つとむのインターンシップは1998年に開始、2025年8月末までに114名が参加しました。

◎第55期インターン生の森田瑛斗さんは、医師国家試験に合格し、4月1日から研修医として社会人。

◎2025年夏季第56期生インターンシップには合計3名の応募者があり、現在研修中。

◎次期インターンシップ(第57期生:2026年春季)の受け付け照会をまもなく開始します。

インターン体験記②-2 露木莉子

会社についてご説明頂いた後、実際に工場見学をさせていただきました。工場では、実際にジャムやピューレの製造過程を見ることができ、設備品や作り方について学びました。業務用のものを作っているとのこと、機械の大きさを目の当たりにしました。完成品も私たちが普段目にしているジャムとの大きさとはけた違いに大きく、大変驚きました。倉庫では、様々なジャムやピューレを管理していて、その中にはのりのつくだになどのお惣菜のフレーバーがあることに驚き、多種多様なものを取り扱っていることを知りました。



昼食では、実際にジャムの食べ比べをさせていただきました。同じ味でも、砂糖の種類やフルーツの量を変えることで、味わいや食べる人の目的・効果が変わり、ジャムを食べる際にそういったことを気にしたことがなかったので、とてもおもしろくいつもより美味しく感じました。私は、ヴェルジェという種類のジャムが1番果肉が感じられて好みだなと思いました。さらに同社の印象としては、社内ですれ違う際の挨拶がとても丁寧で印象的で、会社の雰囲気がとても良いなと感じました。私が実際に社会に出た時に、そういったことを1番に大切にできるようになりたいと思う経験になりました。



インターンシップで若者育成の貢献
町田市議・完全無所属・良識ある保守

吉田つとむ



好評インターンシップは、欠かさずに続いている

インターン体験記③渡部 結衣

自由民権資料館を訪ね、町田の自由民権運動を学ぶ

今回のインターンシップでは、町田市立自由民権資料館を訪問する機会を得ました。館内には自由民権運動に関する多くの史料が展示され、近代の日本全体や、町田の民主主義の歩みを具体的に学ぶことができました。特に印象に残ったことは、五日市憲法の実際の草案を直接目にしたことです。五日市憲法とは、大日本国憲法に先立って地域住民が作成した憲法草案で、教科書でしか見ることができなかった史料を直接見ることで、とても感動しました。

また、町田における自由民権運動が全国的に見ても非常に組織化されていたことを知り、町田の地域住民が主体的に政治や社会の変革に関わろうとしていた姿勢には、大変驚きました。さらに、演説における身振りや手振りを解説した指南書である、天民居士『自由演舌言論軌範』が刊行されていたなどのことから、当時の社会で演説がどれほど大きな影響力を持ち、人々の関心を集めていたのかを実感することができました。

今回の訪問を通じて、自由民権運動の歴史を単なる知識としてではなく、町田という地域に根差して考えることが出来たのが、大きな学びとなりました。今後は、この経験を活かし、歴史的事実を単に知識として捉えるだけでなく、地域社会にとって、どのような影響をもたらすのかを考えながら学びを深めていきたいと思いました。



大妻女子大学1年生 渡部 結衣(第56期生)

◎吉田つとむのインターンシップは、参加者との個別対応が特徴です。

◎吉田つとむのインターンシップは、社会人になった先輩インターン生との直線面談が好評です。

◎就業先は一般企業就職が最大で、次いで公務員や教職。弁護士が3名、医師も1名。

インターン体験記④渡部 結衣

市議会の会派室で、議員活動を見る



今回のインターンシップでは、町田市議会の議会運営委員会を傍聴し、市役所職員の方々へのヒアリングを体験しました。運営委員会の傍聴では、会議室の中央に速記の女性が座っていたことが印象的で、実際の議事録作成の様子を目にする貴重な経験となりました。また、質疑応答が比較的少なめであった点も意外に感じられ、委員会運営の実情を知ることができました。

ヒアリングでは、長野県にある「町田市自然休暇村」の抽選漏れに関する市民の声を踏まえた情報交換や、国民皆保険と介護保険に関する税収の合計額についての質問、さらには町田市が行っているキャリア教育の意義や具体的な内容に関する説明を伺いました。市民生活に直結する課題への行政の対応を理解でき、有意義な学びの機会となりました。さらに、ヒアリング先の一つの課には、吉田つとむ議員のインターンシップにかつて参加されていた職員の方、いわば私にとっての「先輩」が勤務されており、大変驚きました。同じ研修の経験を持つ方が実際に市役所で活躍されていることを知り、自分自身の学びを将来につなげていきたいという思いが一層強まりました。

今回のインターンシップを通じて、市議会や市役所の活動を具体的に知ることができ、行政の仕組みを理解すると同時に、地域社会における公務の重要性を実感することができました。

大妻女子大学1年生 渡部 結衣(第56期生)